

2026年度(総合型選抜)AO選抜入学試験 スポーツ健康科学部「CREA方式(教員熱望型)」

1. 実施状況

(1) 志願者数、合格者数等

学科・学域・専攻等	志願者数	一次合格者数	最終合格者数
スポーツ健康科学科	13	3	2

(2) 本入学試験の目的

本入学試験の目的：本入学試験の目的は以下の点について確認することです。

- 1) 高度な専門性を有した保健体育科教員を目指す高い学習意欲を有し、それを行動に移すことができるか
- 2) 理論と実践を通じてスポーツ教育学を学ぶ知的好奇心、強い関心および意欲を有し、それらを行動に移すことができるか
- 3) 文理融合の総合科学であるスポーツ健康科学を学ぶための確かな学力を有しているか
- 4) 課外活動あるいは様々な教育ボランティア活動等に積極的に取り組み、且つ教員を目指す学生を中心となって行動することができるか

そのために、各選考において、下記を評価し、合格者を選出しました。

<第1次選考>

書類選考：保健体育科教師を目指す意欲や基礎学力、および課外活動における取り組み

<第2次選考>

①プレゼンテーション・②面接:保健体育科教師を希望する動機や関心の高さ、および表現力や社会性

2. 試験内容

(1) 第1次選考

課題論文では、立命館大学で学ぶということを踏まえて「あなたがなりたい教師像」をテーマとして設定しました。

(2) 第2次選考

- ① プレゼンテーション試験（「プレゼンテーション用資料」作成・プレゼンテーション実施・プレゼンテーション内容に関する質疑応答）
保健体育の教科書に基づいて出題された問題文にもとづき、「プレゼンテーション用資料」を作成し（60分間）、それに基づきプレゼンテーションを実施（5分間）、続いて質疑応答を行うという形式で試験を実施しました。
- ② 面接
出願書類をもとに、個人面接を実施しました。

3. 出題の意図

(1) 第1次選考

以下の点について確認するために出題しました。

- ・ スポーツ健康科学部へ入学後、どのような活動あるいは経験を通して教師として必要な指導力を伸ばし、どのように社会に貢献したいと考えているか

- ・ 入学後、どのような活動計画を通して、どのような能力を身に付けたいと考えているか、また、どのような教師になりたいと考えているか
- ・ 文章の論理性・説得性、適切な表現力と文章の構成に関する能力(入学後に大学で学ぶ力)があるか

(2) 第2次選考

①プレゼンテーション試験

- ・ 保健体育科教師を希望する動機あるいは関心の高さを有しているか
- ・ 高等学校における保健体育の学習を踏まえ、課題文を正しく読み取り、ポイントをまとめ、的確に資料上に表現し、その上でプレゼンテーションという形で適切に発表できるか

②面接

- ・ 立命館大学スポーツ健康科学部を志望する理由および保健体育科教師を目指す動機・意欲
- ・ 入学後、学びたい内容および実践したい活動等、あるいはこれまでの経験
- ・ 他者とのやり取りの中で、質問の意図を正しく理解し、自身の主張を的確に伝えられるか

4. 評価のポイント

(1) 第1次選考

入学試験要項に記載されている課題文に沿って、適切に論述できているかを評価のポイントとしました。

(2) 第2次選考

以下の点を評価のポイントとしました。

①プレゼンテーション試験

- ・ スポーツ健康科学および保健体育科教師への関心は高いか
- ・ 設問に対して、適切に資料が作成されているか、また主張がわかりやすいよう工夫されているか
- ・ 話し方の明瞭さや資料の活用、聞き手を意識した伝え方など、発表の仕方が適切か
- ・ 他者とのやりとり(質疑応答)の中での表現は適切か

②面接

上記「3.出題の意図」にて記載の内容を評価のポイントとしました。

5. 解答状況

(1) 第1次選考

- ・ 保健体育の授業あるいは課外活動において具体的に何を経験したのか、それをどのように入学後での学びあるいは将来に活かし、どのような保健体育科教師になりたいと考えているか、についてしっかり書いていたかどうかポイントでしたが、具体的に記述できている受験生がかなり限られていました。
- ・ 「保健体育科の教師像」に関する記述が、運動部活動の指導に偏っていました。保健体育科教師の役割として運動部活動の指導がメインではなく、学校でのような体育授業を行いたいのか、どのような保健授業を行いたいのか、授業や教師としての仕事を通してどのように教育に貢献したいのかといった保健体育教師としての像が、具体的に記述できていない受験生が大半を占めました。・ 保健体育科教師になるために、立命館大学スポーツ健康科学部で入学後に具体的にどのような学びをしたいのかということもポイントでしたが、将来の目標である保健体育科教師と立命館大学スポーツ健康科学部の学びについて具現化して記述できている受験生が限定的でした。

(2) 第2次選考

- ・ ①プレゼンテーション試験では、指定された内容について、適切に資料を作成し、その資料を有効に使用して説明できるかどうかを評価しました。

- ・ ②面接では、「保健体育科教師」に対する熱望度合いについて、運動部活動の指導に偏ることなくしっかりとアピールできるかどうかの観点について評価しました。

6. 次年度の受験生へのアドバイス

教員熱望方式（AO「CREA方式 教員熱望型」）は、将来中学校や高等学校の教育現場で保健体育科教師として活躍したい、よい保健体育授業を実現したいという、強い志を持った人材を求めています。

保健体育科教師は、課外活動の指導およびその活性化を担いますが、それ以上に生徒が、多くの人々と共に健康づくりを行い、スポーツ活動に取り組むことを目標に、主に保健体育授業を通じて教育しなければなりません。

日頃から、保健体育科の学びを通して、現代社会の現状を観察し、将来私たちが生涯を通じて豊かなスポーツライフを実現・継続できるようになるために必要な課題を仲間と議論し、健康づくり運動あるいはスポーツ活動の意義あるいはまた楽しさを考えてください。

また私たちには、スポーツ活動を「する」ばかりでなく、様々な環境でスポーツが応用されている現状を「見る」、それらスポーツの歴史的な変遷や現代スポーツの特徴などを「知り」、スポーツ文化を「支える」役割があります。

これらのことを推進していく保健体育科教師の資質・能力についても学んで頂きたいと願っています。

以上